

稲作情報



No. 7 【中干し以降の水管理】

J A えちご中越 さんとう営農センター
☎ (0258) 41 - 2887

さんとう北営農センター	☎0258 (74) 3434
さんとう営農センター 営農課	☎0258 (42) 4133
こしじ営農センター	☎0258 (92) 5606

速報! 茎数が急増中です!! 茎数確保できたほ場から直ちに中干し開始しましょう!!

コシヒカリ生育状況 (6月8日調査: 生育調査地点 平均値)

6月に入り平年に比べて気温が高く日照の多い天候が続いていることから、茎数が急激に増加(指標値比: 104%)しています。6月10日以降、くもりや雨の日が多くなる予報(梅雨入り間近)で茎数の急激な増加から過剰生育(→茎質低下)が懸念されます。

ほ場ごとの生育(茎数)を確認して、目標茎数を確保できたほ場から“至急・直ちに”中干し・溝切りを開始して下さい!!

- * 草丈: 指標値比 104% → 平年並み～やや長い
- * 茎数: 指標値比 104% → やや多い～多い(ほ場差: 大)
- * 葉数: 指標値比 +0.3 葉 → 平年並み～やや早い

地固めの梅雨入り前に!!
地固めを開始して下さい!!

地区	田植日	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(葉)
寺泊	5/7	30.9	255	6.8
和島	5/11	31.2	230	6.9
出雲崎	5/5	31.8	310	7.2
与板	5/13	32.8	169	6.8
三島	5/10	28.0	220	7.0
越路	5/12	32.8	270	6.7
平均	5/10	31.2	239	6.8
指標値	5/8	30.0	230	6.5

1. 中干し以降の水管理

「地球にいいこと」「未来にいいこと」地域の人々で始めよう!!

(1) 「SDGs」な水管理の手順

【図: 「1週間の延長中干し」のイメージ】

月日	6/5	6/15	6/25	7/5	7/15	7/25
稲作ステージ	有効分げつ期 → 最高分げつ期		幼穂形成期 → 出穂期			
慣行中干し	浅水	中干し	間断かん水 → 飽水管理 → →			
1週間の延長中干し	浅水	1週間の延長中干し	間断かん水 → 飽水管理			

左図を参考に地域全体で「1週間の延長中干し」に取り組みましょう(^^) / 地球温暖化に影響を及ぼしている「温室効果ガスの抑制」に向けてこれまで取り組んできた中干しを…「7日間延長するイメージ」で幼穂形成期前まで“延長中干し”に取り組みましょう!!

- * 注1 晴天が続くときは適宜入水して「大ヒビに注意」!!
- * 注2 入水した水は必ず1日以内に落水「長期湛水はダメ」!!

水管理イメージ

中干し開始

必ず「小ヒビで終了」!!

中干し期間 (3週間程度)

ほ場の条件によって長さ(期間)・強さを調整する

【遅くとも出穂1ヵ月前までに】

◆浅水の間断灌水

● 飽水管理

(出穂後25日まで継続します!!)

→ 徐々に飽水管理に移行します!!

(2) 中干し後の水管理イメージ

作業内容	水管理の概要	ポイント
◆ 間断かん水	① 入水 田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。	深水にし過ぎない
	② 湛水 根の機能低下防止のため、湛水期間は1～2日程度とします。	長期間湛水しない
	③ 落水 入水完了から1～2日経過したら水尻をはらい、落水します。田面が乾ききる(田面が白くなる)前に「①入水」を開始します。	乾かし過ぎない
	①～③の水管理を繰り返し行い、徐々に「飽水管理」に移行します。	
● 飽水管理	①' 入水 田面の溝や足跡から水がなくなる前に入水を開始します。→田面の高い部分が隠れる程度(水位3～5cm)まで入水します。	深水にし過ぎない
	②' 自然落水 水尻は、しっかり止水しておきます。自然な減水で田面に水がなくなり、溝や足跡の底の水がなくなる前に「①'入水」します。	乾かし過ぎない
	出穂後25日以降まで①'～②'の水管理を繰り返し、根の健全化と地耐力の維持に努めます。	

田面が乾きすぎる前に「入水」しましょう!

この状態は乾かし過ぎです!

補植苗は→直ちに撤去してください!!

* この水管理を繰り返します!!

2. カメムシ対策

全地域一斉による農道・畦畔、雑種地等の草刈り・除草の徹底により、地域全体でカメムシ類の発生密度を低下させましょう!!

「カメムシ被害撲滅運動」第2弾

第1回 一斉草刈りウィーク

6月10日(土)～17日(土)

実施中!!

重点的に除草する雑草

メヒシバ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ナギナタガヤ

★ 雑草種子を結実させない!!

ポイント

「幼穂形成期」以降は根の老化・減少が始まり、「新しい根」はほとんど発生しません!

根の「老化・断根」防止に向けて、中干し終了後には「飽水管理」に移行し、根の健全化に努めましょう!

～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～

次回稲作情報: 6月下旬「生育速報、穂肥、病虫害防除」(予定)

3. 中間追肥

ケイ酸の施用は、高温条件下でも登熟の向上効果が期待できます。
ケイ酸質肥料の施用で「異常気象に強い米づくり」を実践しよう！

◆【ケイ酸質資材（中間追肥）の施用効果】

- ① 根張りの促進による倒伏軽減
- ② 登熟向上による乳白粒の発生軽減と食味向上
- ③ いもち病・ごま葉枯病への抵抗性の向上
- ④ 葉の蒸散機能が活性化して葉温を低下させる
- ⑤ 光合成の手助けをして日照不足などによる障害軽減 など
… が期待でき、高品質・良食味米の生産につながります。

肥料区分	資材名	施肥量	施用時期
ケイ酸質肥料	スーパーシリカプレミアム	20～40 kg/10 a	出穂前 30～40 日頃
	けい酸加里プレミア 34	20～40 kg/10 a	出穂前 35～45 日頃
加里肥料	塩化加里 60%（粒状）	7～10 kg/10 a	出穂前 40 日頃
磷酸肥料	マグコープ	20 kg/10 a	出穂前 30～40 日頃

【本田中・後期除草剤の活用ポイント】

本田内にヒエ・ホタルイ等の雑草が多発生・繁茂してしまうと・・・

- ① 水稻と雑草との間で“**栄養の競合（奪い合い）**”が発生します。
- ② 出穂した本田内の雑草は、**カメムシ類の産卵・増殖場所**となります。

いずれも、水稻の品質・収量に大きな影響を及ぼすことから、本田内にヒエ・ホタルイ等の雑草が発生してしまったら、中・後期除草剤（クリンチャー・バサグラン）を上手に活用して、しっかり雑草防除しましょう！

1. イネ科雑草（ノビエ）対策 → 「クリンチャー剤」

ヒエ：水田や湿地などに生える一年草で、イネの最大の害草（栄養競合、カメムシのエサ）となります。ノビエ類は毎年種子から発芽して生育し、夏から秋にかけて出穂・開花・結実して種子を土壌面に落下させ、翌年の発生源・繁殖源となっています。はじめに線形の葉が出て、やがて分げつして大きな株になり、イネよりも草丈が高くなります。7～9月に花穂を出し、多数の種子を生産します。

農作業中の熱中症や事故
には、十分注意してネ!!

クリンチャー 1 和粒剤（ノビエ：5 葉期まで *1.5kg/10 a 散布）			クリンチャー EW（ノビエ：6 葉期まで）	
① 5 cm 程度に湛水して散布	② 有効成分が水面に広がる （注：藻類・表層はく離）	③ ヒエに接触	① 落水した浅水状態	② 展着剤を入れて丁寧に散布
★ ヒエの葉身と水面がしっかり接触するよう水位を調整します。			★ 「展着剤＋丁寧な散布」でヒエ本体に EW 剤をしっかり付着させます。	

2. イネ科以外の雑草（ホタルイ等）対策 → 「バサグラン剤」

ホタルイ：湿地や池沼のほとりなどに生える多年草。水田では種子繁殖が主体で、種子は水田の湛水土中で発芽します。根元から多数の茎を出し、先に緑褐色で卵型の小穂を 2～5 個つけます。葉は退化して小さく、茎と連続しているように見えます。種子繁殖および株基部に形成される越冬芽による栄養繁殖を行います。繁茂させてしまうとイネの栄養分を奪い、出穂した小穂はカメムシの格好のエサ・産卵場所となります。

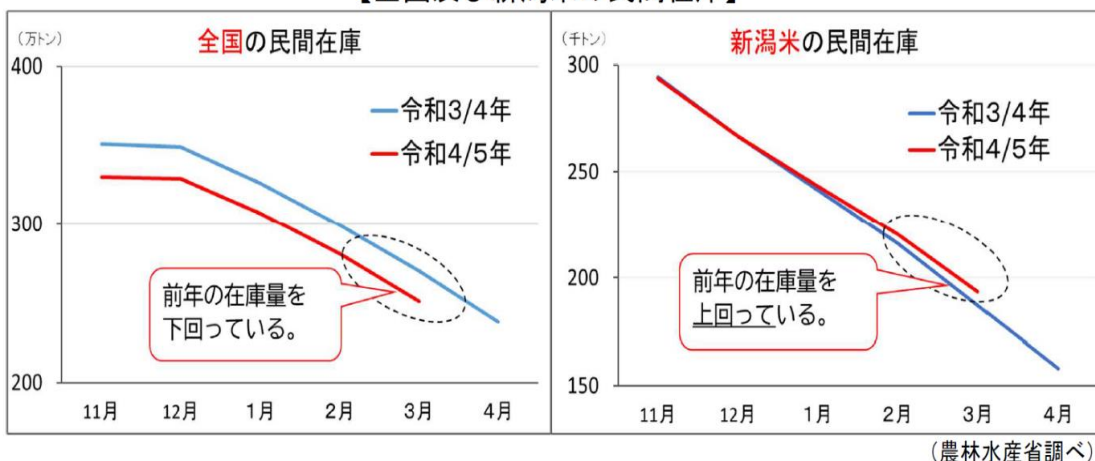
イネ科とイネ科以外の雑草が
混発してしまったら・・・
「クリンチャーバス ME 液
剤」を活用して下さい！

バサグラン粒剤・バサグラン液剤（ホタルイ：発生盛期～増殖中期）		
① 水尻を切って落水する	② 足あと水状態になったら水口・水尻を止める	③ 雑草の発生箇所粒剤・液剤を散布する
★ 散布した薬剤成分は、根部・茎葉部から吸収されます。なるべく水深を浅くしてから散布します。（* 乾かしすぎても効果が劣ります。）		
★ 晴天が続く日を選んで散布し、散布後 3 日間は入水・落水しないようにします。降雨があっても散布後 7 日間は、落水しないようにします。		

* 【注意】クリンチャー剤・バサグラン剤は、発生している草を枯らす「枯殺剤」です。これから発生しそうな発芽前の雑草を抑える抑草剤ではありません。早すぎる散布に注意して下さい！（★ 散布適期 = 発生初期：× → 増殖初中期：◎）

令和 5 年産米：「需要に応じた生産」の取り組みにご協力をお願いします!!

【全国及び新潟米の民間在庫】



令和 5 年産の新潟米は、現時点の作付意向で主食用米が増産となる地域もあるなど、県全体で増産となるのが大いに懸念されています。また、左図のとおり、全国の民間在庫は前年の水準を下回って推移しているのに対し、新潟米の民間在庫は前年の水準を上回っており、主食用米を増産できる状況ではないことから、5 年産の生産目標の実現に向けて確実に取り組むことが重要となっています。

★★前年産と同等の主食用米生産となるよう
「需要に応じた生産」にご協力をお願いします!!★★